



令和5年度の1学期が終わりました

1学期があっという間に終わろうとしています。5月より新型コロナウイルスが、2類から5類へ引き下げられ、感染拡大予防の行動自粛もほぼ緩和され、コロナ禍前に近い生活環境が戻ってきました。学習参観や個人懇談会は、コロナ対策制限を設けずに行うことができました。親子清掃も行うことができました。ゲストティーチャーを招き、子どもの体験を重視した取組を今後さらに活発化させていきたいと思います。

一方で、コロナ禍を通して学べたこともあります。これまでの教師主体の教育活動を抜本から見直し、子ども自ら考え、やり遂げる教育へ移行するきっかけともなりました。1学期末には、児童の委員会主体で、休み時間を使った集会活動が行われました。まだまだ、児童を主体にするための教師のサポートは欠かせませんが、徐々に子ども主体の創り出す活動が行われる風土が培われていると感じます。

2学期は子ども主体のえいスポの2回目を行います。子ども主体の新たな取り組みが行われるのが今から楽しみです。2学期もどうぞよろしくお願い致します。

◎ 意義深い夏休みをお過ごし下さい

行動制限のない夏休みが久々にやってきました。今年の夏は、家族でよい思い出をたくさん作ってください。廊下で出会う子どもたちに、今年の夏の計画を尋ねると、こんな答えが返ってきました。

- 祇園祭や盆踊りを見に行く、参加する
- プールや海、川遊びに行く
- 習い事の練習
- 涼しい図書館で読書三昧
- お婆ちゃんの田舎に帰省して遊ぶ
- キャンプに出掛ける
- 自由研究にはまる
- 毎日虫捕り
- テマパークや水族館、キッズニアなど旅行

中学校に入ると、部活動が盛んになり、家族と過ごす時間は減ってきます。小学生の頃しか作れない家族の思い出をぜひたくさん作って下さい。

ただし、制限が解除されているとはいえ、新種株のコロナウイルスが感染を広げ、RSウイルス、アデノウイルス、ヘルパンギーナなどの感染症も流行っています。手洗い、換気など十分気を付けてお過ごしください。

◎ 夏休みの生活がんばりカード

夏休みは特に生活習慣が乱れやすいことから、夏休みに入るとの1週間と、始業式前の1週間に生活がんばりカードに取り組みます。このカードは、いつ、どこで、何をどうするか、自ら決めて、取り組み、振り返ることができるようにしています。

一番力を入れているのは、親子で毎日振り返る項目です。保護者の方から、次のような相談をよく受けます。

「大切な話をしようとするのとどこかに逃げてしまう」

「ゲームを長時間するのを止められない」

「家族の一員としてお手伝いをさせたいが暇がない」

子どもは、本当は保護者の方に毎日褒めてもらいたいのです。苦しいことも褒められると頑張れる。親の肯定的な言葉は、何よりも子どもに自信とやる気を与えます。このカードを上手に使って子どもの成長につなげてください。

◎ ホンモノの樹木を知る

樹木をよく知る9人のホンモノの樹木マスターが4年生のために来てくれました。

月桂樹の葉の匂いや手触り、風にそよぐ音やヤマモモの実の味、桜の葉の蜜に集まるアリの意味、校章に使われた大きな桐の葉、名前のいわれや特徴など、聞かせて、触らせて、見させて、子どもたちに植物への関心を高めさせていただきました。

永犬丸小学校が60年前に創立したときは、赤い瓦の校舎以外、樹木も花壇も何もない学校でした。当時の校長先生や子どもたちが荒れ地を耕し、保護者からいただいた樹木を植えて作った手作りの学校でした。60年後の今、桜やツツジなど花であふれる学校となりました。

今後、学校裏の殿間（でんどう）の森に生える竹を使って3年生児童が竹あかりに挑むとも聞いています。自然と子どものつながりが今も続いています。

◎ 留守番電話対応のご協力に感謝

教員の過重労働が問題となっており、教員不足が社会問題にもなっています。6月より電話対応時刻を勤務時刻に寄せて8時より17時までとさせていただきます。テトル連絡への移行、ご協力に感謝いたします。

今後は授業時間外の教職員の業務削減をさらに進めることが求められています。時間外に行っていた掲示物作成や宿題の見とり、成績処理等についても事務作業軽減を段階的に進めて参ります。

それと同時に45分間の授業の質と効率の向上を図る授業力の向上も行い、決められた時間の中で全ての子どもたちを質高く成長させる学びへと変換していきます。

学校行事も「見せる行事から育てる行事」へと転換を図ります。これは学校行事がカリキュラムを逸脱してきた反省を踏まえ、学習内容との一体化を図り、子どもを育てることに重点を置き転換を図るものです。

本校は、新しい時代に適応できる子どもを育成するため中教審答申や文科省の新しい指針を受け、開発と実践に取り組みます。なにとぞ保護者の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

※夏休みの宿題と ICT スキル向上のためタブレットを持ち帰らせています。学習以外に使わない約束をしています。プリントを持ち帰っていますので、正しい使い方について確認をおねがいします。

※市内学校閉庁日 8月10日(木)、14日(月)、15日(木)、16日(水) 閉庁日は電話対応ができません。

おしゃべりと親子のきずな

福田 健 著 我が子に伝える話し方の技術 小学館より

◎「無駄話は本当に無駄なのか」

「おしゃべりする時間があったら、宿題やっちゃいなさい」
「くだらないことしゃべってないで、片付けしなさい」
子どもだって、宿題や片付けをしなくてはならないことくらい分かっています。だからこそ、ちょっとした時間に、おしゃべりしたくなるものなのです。

しなければならないことに取り巻かれる窮屈さから、おしゃべりは人々を解放してくれます。つまり、おしゃべりは気分を楽しくするコミュニケーションツールなのです。

◎大人になっても胸に残る会話

子どものころ、親と交わした会話のやり取りは、不思議と思い出として残るものです。45歳の男性の事例です。

★45歳の男性のお話（アンケートから）

我が家では、母親と買い物に行ったあと、帰って食卓で、一緒にせんべいを食べる時間がありました。最初は、仕方なく付き合っていたのですが、次第に習慣となり、その時間は取るに足らぬくだらない話をいつもしていました。

「このせんべい硬すぎるね」

「あ、その靴下、穴が開きそうね（笑）」

「あ、豚肉餡うのを忘れてた。二人して忘れてたわね（笑）」
いつもくだらない話の時間、なぜか印象に残っています。

この男性と母親は、せんべいのおやつタイムが二人の大事なコミュニケーションタイムとなっていたのです。それは「お互い安心して話ができる」心地良い時間なのです。

心地良い時間の作り方は、「注意したり、問いただしたりしない」「特別なことではなく、ありきたりの日常の話をする」「時間は短くてよい」たったこれだけで十分です。

それだけで子どもは、自分が受け入れられていると実感します。そして、親と話したことが、いつまでも消えない（居心地の良さが）思い出として残るのです。

★子どもの頃の親との何気ないおしゃべりは、いつまでも心に残る
★毎日一回、5分程度、子どもと「おしゃべりの時間」をつくろう

◎子どもが話したくなる「聞き方」のコツ

聞き手は、話し手と目を合わせて、明るい表情で頷いたり、相槌をうったりするなどして、「あなたの話を聞いていますよ。ほら、この通り」と熱心に聞いていることを伝えるようにしましょう。

相手に安心感を与える聞き上手なタレントが、明石家さんまさんです。テレビの出演に慣れていない小中学生やおじいちゃん、おばあちゃんに、「こんな話聞いてもらえるかな」とためらいの表情が浮かぶことがあります。

さんまさんは、それに瞬時に気付く

「あんた、なんか話したいことがありそうやね」

「キミ、なんか違うって顔したね」

と気軽に呼びかけ、相手がしゃべりだすと、

「ええっ、ホンマ？」

と驚いて見せ、

「そりゃ、そうや」

と全身で頷いたり、腹を抱えて笑い転げたりして見せるのです。すると相手は安心して、話し始めます。あっという間に、その場が盛り上がり、参加した人たちも生き生きと話し出すのです。

彼は決して、自分の話で盛り上げているのではなく、相手の話を引き出して盛り上げているのです。

子どもの話を聞くときの参考になりそうです。

おしゃべりは ^{Never} 決して
むだじゃない！

だから...
子どもの話を聞き出す
上手な聞き役になりたい

そこで...
さんまさんの聞き方を学ぼう!!



まずは犬を相手に練習をしてみる
心が通った気がして...

